

議長	事務局長	次長	係長	係員
		—		

令和5年3月20日

三沢市議会議長 堀 光雄 殿

基地対策特別委員会

委員長 小比類巻 雅彦

副委員長 西村 盛男

委員 久保田 隆二

委員 遠藤 泰子

委員 下山 光義

委員 春日 洋子

委員 馬場 騎一

議長 堀 光雄

随行者（議会事務局）

次長 中野渡 孝英

主査 中嶋 泰史

復命書

令和5年2月15日（水）から17日（金）まで、沖縄県北谷町役場及び嘉手納飛行場において行政視察を実施したので、別紙のとおり復命します。

沖縄県北谷町役場における行政視察

1. 日 時：令和5年2月16日（木） 10時00分～11時30分

2. 場 所：北谷町役場 4 階 全体協議会室

3. 出席者：

北谷町 町議会議長 仲地泰夫
基地対策特別委員会 委員長 照屋正治
副委員長 興儀誠
議会事務局事務局長 伊波興勇
議事課長 宮里泰明
議事課議事係長 伊波隆子
総務部 基地・安全対策課 住民安全係長 与那霸政志

三沢市 市議会 堀議長、小比類巻委員長、西村副委員長、森議員、
馬場委員、春日委員、下山議員、遠藤委員、久保田委員
議会事務局 中野渡次長、中嶋主査

4. 視察項目：嘉手納飛行場所在に起因する諸問題について

5. 視察概要：

北谷町には嘉手納飛行場、キャンプ桑江、キャンプ瑞慶覧、陸軍貯油施設の4施設の米軍基地が所在し、町の面積13.91km²のうち、7.18km²が米軍基地の面積であり、町面積に占める割合は51.62%となっている。また、施設・区域内外居住者数は区域内6,993人、区域外4,004人となっている。

嘉手納飛行場は北谷町、嘉手納町、沖縄市に跨り、100機あまりの航空機が常駐、昼夜を問わず飛行訓練が行われている。

キャンプ桑江は平成15年に一部返還されており、現在の北谷町役場は当該返還地に建てられたものである。

キャンプ瑞慶覧は北谷町、うるま市、沖縄市、北中城村、宜野湾市に跨り、司令部が所在している。

陸軍貯油施設はうるま市の天願桟橋に陸揚げされた航空機燃料等を貯蔵するとともに嘉手納飛行場や普天間飛行場などに燃料を運ぶ施設である。

北谷町の防音工事に係る騒音区域指定は、昭和53年から昭和58年にかけて国から告示が行われ、区域が指定されている。また、平成16年及び平成24年には通達により、告示された区域の変更が行われ、米軍返還地域を含め、町内の米軍施設以外の区域が指定されている。また、嘉手納基地に起因する土地・建物の移転措置事業については、北谷町の砂辺地域が対象となっている。移転後の国有地を有効活用に向けて、沖縄防衛局と調整を行ってきている。

住宅防音工事の状況については、沖縄防衛局で申請を受け付けており、北谷町としては基地・安全対策課において、区域等の確認をし、防衛局へつないでいる。件数は減少傾向にあるが、令和3年度時点でも約100戸の工事が行われるなど、防音工事の必要性はあるものと思われる。

米軍人・軍属及びその家族による事件・事故等件数は近年では毎年10以上発生しており、それに対する町の対応としては、沖縄市、北谷町、嘉手納町の三市町による三市町連絡協議会及び北谷町により嘉手納飛行場に対して抗議要請行動を行っている。

北谷町では町内の5ヶ所において、県及び町により航空機騒音を測定しており、そのうち4カ所でII類型の環境基準値を超過している。

平成26年10月30日には米軍人による立てこもり事件が、キャンプ桑江内の自宅、民間地の近くで発生している。平成19年3月8日には、路上を歩行中の女性が右胸を怪我するという、軍属の息子による空気銃発射事件が発生している。

6. 委員からの質疑：

久保田委員Q：米軍人による事件ではどのようなものが多いのか。

A：飲酒運転による車両事故や窃盗事件、建造物侵入、器物損壊などが多い。

小比類巻委員長Q：航空機事故が発生した場合は沖縄防衛局や米軍にどのように要請するのか。

A：町から軍属が所属している基地に対して行っている。

Q：米軍人、軍属の人数はどのように把握しているのか。

A：沖縄県が防衛局から聞き取りして公表していたが、平成23年以降はテロ対策ということで公表されていない。

春日委員Q：住宅防音工事を待機している方はどれほどいるのか。地元業者に発注しなければいけないなどの規定はあるのか。

A：防衛局から実績件数は聞いているが、申請件数が何件で待機者が何人いるかということは把握していない。地元業者に発注しなければいけないという規定はない。

森委員Q：北谷町ではどの程度の範囲が2種区域に入るのか。

A：戸数は把握していないが、町内的一部を除いてのぼ全てが対象となる。

下山委員Q：住宅防音工事の全体の工事額は把握しているか。

A：工事額は把握していないが、防衛省の予算に応じて戸数が増減し、1世帯1千円ほどと思われる。

遠藤委員Q：騒音区域の指定や見直しについて、注力している点は。

A：砂辺地域等で買取により虫食い状態な土地ができてしまっているが、そのような土地の有効活用を進めている。

馬場委員Q：住宅防音工事について、どのような苦情があるか。

A：以前は苦情がなかった地域から苦情が寄せられるようになっており、飛ぶルートが変わったのではないかと推察しているが、防衛局の事業であるため、町に苦情はそれほどない。

7. 観察の様子：





嘉手納飛行場における行政視察

1. 日 時：令和5年2月16日（木） 13時30分～14時45分
2. 場 所：嘉手納飛行場
3. 説明者：渉外部 キム一等軍曹
4. 視察概要：

キム一等軍曹による説明：嘉手納基地は、太平洋地域の中で最も大きな飛行場であり、米軍の空軍力が集中している。嘉手納基地を管理・運用しているのはアメリカ空軍の第18戦闘航空団であり、一番の任務は同盟国と共に航空力を展開し、地域の安全に寄与するという責務がある。第18戦闘航空団が運用する機体以外にも、同盟国やパートナー部隊の航空機も嘉手納飛行場を使用する。嘉手納基地を中心として飛行到達時間の地図を見れば、なぜ嘉手納飛行場が重要なか分かる。1時間以内に台湾、2時間以内で東京などの大きな都市に到達することができる。そして3、4時間となると、アジア地域の主要な都市に行くことができる。滑走路は、3,700mの滑走路を2本整備されている。基地の人口の内訳は、航空団の所属人数は、空軍兵が5,000人、日本従業員も3,000人いる。18航空団以外にも、海兵隊、海軍、陸軍のメンバーも嘉手納基地に部隊がいる。空軍の特殊作戦部隊やスペース軍もある。第18戦闘航空団の下には5つの部隊があり、1つは第18運用群があり、任務は航空機の運用となっている。2つ目に航空機を運用するには整備が必要であり、整備群がある。3つ目は任務支援群で基地管理をする部門で憲兵やバスの運転手もそうである。4つ目は施設群で施設の管理でインフラを管理する。5つ目は医療群で現軍人の健康を維持するため、医療サービスを提供する。

今、嘉手納基地に来ているF22戦闘機の部隊はアラスカから来ている。アファーバーナーは、相当な理由がない限り使用はしていない。第5世代の戦闘機は、情報が全てヘルメットに映し出されるという違いがある。飛行距離は、通常はおよそ2時間程度で飛行する。三沢基地までは給油しなくても飛行できる。嘉手納基地所属のF15戦闘機（約50機）は非常に優秀な機体だが、古くなっている（F15Cという機体）ため、少しずつ本国への帰還が始まっている。それを補うために他の基地からF22などの部隊が応援で来ている。F22は全ての武器等を機体内部に格納しているため、ステルス性能が高いという特徴がある。今はドイツの基地から来ているF16も駐留している。F16は、F15が高価過ぎるために新たに開発された機体であり、コンパクトであることから機動性に優れている。

米空軍のオスプレイの部隊は横田基地にあるが、司令部は嘉手納基地になっている。爆撃機の部隊はグアムに所属している。

基地内には、米国から直接移動できる空港施設があり、軍人と家族は無料で本国との間を移動できる。そういう施設は、三沢基地にもある。

その後、F22 戦闘機、F35 戦闘機、F15 戦闘機、輸送機、空中給油機、哨戒機、貯油施設等を車窓より見学した。

なお、基地内においては一切の撮影が禁止されているため、写真による記録はない。